

現況からの変化を踏まえた評価（例：工事関係車両の走行に伴う大気質）

9) 評価結果

(1) 環境への影響の緩和に係る評価

事業の実施にあたっては、「7) 環境保全措置の内容と経緯」に示したように、事業者としてできる限り環境への影響を緩和するため、「走行時間の分散」、「交通規制等の遵守」、「アイドリングストップ・エコドライブの励行」といった環境保全措置を講じる計画である。

以上のことから、工事中における工事関係車両の走行に伴う大気質への影響については、環境への影響の緩和に適合するものと評価する。

(2) 環境保全のための目標等との整合に係る評価

工事中における工事関係車両の走行に伴う大気質の予測結果を表 5-1-45 に示す。工事関係車両の通過する地点 A で二酸化窒素が 0.014ppm、浮遊粒子状物質が 0.045mg/m³ となり、環境保全のための目標値を満足する。

また、工事関係車両の走行に伴う増加量は二酸化窒素で 0.000151ppm、浮遊粒子状物質で 0.000032 mg/m³ となり、現況の大気環境を大きく変化させることはない。

以上のことから、環境保全のための目標との整合は図られているものと評価する。

表5-1-45 環境保全のための目標との整合に係る評価結果
(工事関係車両の走行に伴う大気質)

項目	予測地点 (道路名)	予測値			環境保全のための 目標
		①現況	②工事中	増加量	
二酸化窒素 (ppm)	地点A (市道6-74号線)	0.013993	0.014144	0.000151	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmのゾーン内又はそれ以下であること。
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	地点A (市道6-74号線)	0.045139	0.045171	0.000032	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であること。